

藝 林
GEI RIN

第五十四卷 第二号
平成十七年十月

文は言辭の書に著はるゝ也、聖賢の
言は已むを得ずして發す、自然の文章
となる也。後の人文を作るには皆巧言
令色を以てする也。事なきの處に奇趣
向を求めて造作し來る。尤も評すべし。

山鹿素行『聖教要録』詩文